

大学全入時代における大学改革と専門学校 改革 — 金沢工業大学と専門学校の今日

東京工科専門学校: 芦田宏直
ashida@tera-house.ac.jp



「専修学校の振興に関する検討会議」(平成19年9月28日～平成21年3月31日)

青山 伸悦(日本商工会議所産業政策部長) 飯島 寛(埼玉県総務部学事課長)
岩崎 幸雄(学校法人岩崎学園理事長) 黒田 壽二(金沢工業大学学園長・総長)
小杉 礼子(独立行政法人労働政策研究・研修機構統括研究員) 今野 雅裕(政策研究大学院大学副学長)
関口 修(学校法人郡山開成学園理事長) 丹保 憲仁(北海道大学名誉教授、前放送大学長)
寺田 盛紀(名古屋大学大学院教育発達科学研究科長・教育学部長) 戸谷 賢司(都立文京高等学校長)
中 明夫(学校法人大阪成蹊学園理事長) 中込 三郎(全国専修学校各種学校総連合会会長)
福田 益和(学校法人福田学園理事長) 吉本 圭一(九州大学大学院人間環境学研究院准教授)
四ツ柳 隆夫(前宮城工業高等専門学校長、東北大学名誉教授)
(文部科学省)加茂川幸夫生涯学習政策局長、清木孝悦生涯学習総括官、川上伸昭生涯学習政策局政策課長、
上月正博生涯学習推進課長、寺門成真専修学校教育振興室長、その他関係局課担当官

●趣旨

専修学校は、昭和50年の制度創設以来、我が国の中核的な職業教育機関として着実に進展を遂げ、現在約70万人の生徒を擁し、特に専門課程には、約63万人が在籍し、高等教育機関の一翼を担うものとして定着している。

また、昨年改正された教育基本法において、教育の目標として、「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと」との規定(同法第2条第2号)が新たに盛り込まれ、職業教育の重要性が明らかにされたことにより、専修学校の果たすべき役割は今後益々大きくなるものと考えられる。

このような中、社会の変化に即応したキャリア教育や実践的・専門的な職業教育の充実など、専修学校に対する社会的要請の増大に鑑み、専修学校の教育制度の改善や今後の振興方策などについて研究・検討を行い、もって今後の政策形成上の参考とする。

●研究・検討内容

- ・ (1)専修学校の教育制度の改善・充実について
- ・ (2)専修学校の今後の振興方策について
- ・ (3)その他必要な事項について

専門学校一条校化における対大学課題

「高等教育としての専門学校教育」(吉本圭一・九州大学)文科省「専修学校の振興に関する検討会議」第3回 2007年12月21日

●専門学校の就職状況(学校基本調査 1999)

- 全学科での専門学校卒業生の進路
- 70%が関連分野
- 8%が関連分野外
- 21.6%が無業者

●中退率、卒業率、就職率(専門学校、短大、大学)

- 専門学校の中退率は15%、卒業率85%、就職率は83%(1985~2000)
- 短大の中退率は5%、卒業率95%、就職率72%(1985~2000)
- 大学の中退率は7%、卒業率93%、就職率72%(1985~2000)
- 「就職率100%とはよく聞かすが...8割台の卒業率、2割の中退率、無業が少ないと言えるのか」

●専門学校の中退率が高い原因

- 1)必修履修で再履修が困難
- 2)肯定的評価可能性(出口での質のコントロールがなされていること)
- 3)葛藤可能性(「しつけ」教育による若者文化との対立)

●専門学校は大学に比べて「教員が熱心!？」

- 常勤教員1人あたりの学生数 専門学校 18.3人 短大 19.3人 大学 18.7人
- 教員の週単位の授業時間数 専門学校 12.7時間 短大 8.4時間 大学 8.6時間

2008/6/23

「就職の専門学校」?

「専門学校卒業生のキャリアと専門学校教育」(小方直幸・広島大学) 2008/6/3(東専各・調査統計部)

●首都圏の12機関(農業・医療系を除く)を2000年、2004年、2006年に卒業した5904人に対して行った調査

調査時期と方法 2007年10月～2008年1月 郵送調査(督促2回)

回収状況 1221人(回収率20.7%)

サンプルの偏り 「工業」(-8.3%)、「衛生」(-10.2%)、「教育・社会福祉」(+3.7%)、「商業・実務」(+13.4%)、
「服飾・家政」(+8.3%)、「文化・教養」(-8.6%) — 2003年度全国値との比較

●正規職員就職率

2000年の卒業生 56.2%(379人の内)

2004年の卒業生 67.6%(389人の内)

2006年の卒業生 74.4%(356人の内)

●転職率

一回のみ(転職なし)

2000年の卒業生 33.7%

2004年の卒業生 59.7%

2006年の卒業生 78.6%

二回以上

2000年の卒業生 31.5%

2004年の卒業生 24.1%

2006年の卒業生 14.2%

三回以上

2000年の卒業生 34.9%

2004年の卒業生 15.7%

2006年の卒業生 6.9%

●年収(300万円未満)

2000年の卒業生 29.6%

2004年の卒業生 45.6%

2006年の卒業生 60.5%

大学の「教育」改革

91:「自己点検・評価」努力義務化(大綱化の動きと並行)

99:「自己点検・評価」実施義務化

02:「自己点検・評価」の公表+「第三者評価」

02:21世紀CenterOfExcellenceプログラム(日本学術振興会)

03:特色ある大学教育支援プログラム(特色GoodPractice)

- 主として総合的取組みに関するテーマ
- 主として教育課程の工夫改善に関するテーマ
- 主として教育方法の工夫改善に関するテーマ
- 主として学生の学習および課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ
- 主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ(以上平成17年度までのテーマ)

04:現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)

- 「地域活性化への貢献(地元型)」
- 「地域活性化への貢献(広域型)」
- 「知的財産・コンテンツ関連教育の推進」
- 「持続可能な社会につながる環境教育の推進」
- 「実践的総合キャリア教育の推進」
- 「教育効果向上のためのICT活用教育の推進」(以上平成19年度のテーマ)

08:質の高い大学教育推進プログラム(教育GP = 特色GP + 現代GP)

- 教育課程の工夫改善を主とする取組
- 教育方法の工夫改善を主とする取組
- 上記以外の工夫改善を主とする取組

金沢工業大学

- 工学部3283名、環境・建築学部2030名、情報フロンティア学部1274名(3学部15学科構成+大学院:工学研究科+心理科学研究科)ー2007年度現状

- 特色GP採択**[※]

- 07:「価値の共有による技術者倫理教育ー行動を設計する新教養教育ー」
- 06:「学ぶ意欲を引き出すための教育実践ーKITポートフォリオシステムを活用した目標づくりー」
- 03:「工学設計教育とその課外活動環境」

- 現代GP採択**

- 07:「専門基礎の充実を図る教育版CRMの導入ー“Customer:学生”とのリレーション強化による専門基礎教育の実質化ー」
- 06:「KIT産学連携教育プロジェクトの実践」
- 06:「発展する地域連携プロジェクトの実践」
- 05:「ネット版工学基礎教育センターの展開」
- 04:「学びを創造するインターネット町民塾」



■学生を365日勉強させる ①— 金沢工業大学「教育改革」

ポートフォリオ教育※

1. 科目単位のレポートとは異なり、ほぼ毎日～1週間単位にWEB上に書き込まれる履修日記のようなもの。学習内容の整理や自己反省、スケジュールの確認などで利用する。書式自体はカレンダー形式になっている。
2. 今週苦勞したこと、自学自習の内容と時間などの項目が多数用意され、それぞれの項目毎に200字以上の下限文字数制限がある。
3. チューター(修学担任)がそれを管理。担任は教授か準教授。チューター制は、1、2年まで。クラス単位にチューターが付く。一クラスは大体50人前後。
4. 各学期最低1回は、このポートフォリオの内容に関わったカウンセリング(=「面談」)が行われる。内容が悪い場合には、携帯電話かメールで呼び出しがある。面談を受けない者は、修学基礎科目の単位がおりない。
5. このポートフォリオは学生締め付けだけではなく、修学課程の授業への不満なども吸い上げる機会になっている。

レポート教育

1. 1、2年次には毎日何かしらのレポートがある。
2. レポートは履修評価に関わっている。レポート≧試験。

■学生を365日勉強させる ② — 金沢工業大学「教育改革」

・ キャンパス教育の4つの柱

1) ライブラリーセンター(図書館) — 利用率95.0%

月～金曜日 8:30～22:00(学生休業中は8:30～17:00) 土曜日(8:30～17:00) 日・祝日(10:00～17:00)
「ライブラリーセンターは年間339日開館しています」(KITサイトより)

サブジェクトライブラリアン(SL)の存在。サブジェクトライブラリアンは専門分野の教員で構成され、学生の相談に応じています。館内利用や、専門的事項を調べる時にわからないことがあったり、学習の進め方がわからない時は、気軽にSLに声をかけてください。SL制度は、世界で初めて創設された制度です。SLは、講義・研究の他に、ライブラリーセンターの運営企画、資料・情報の収集、レファレンス業務や学習相談も行っています(KITサイトより)。

・ 2) 夢考房(月～金曜日 8:40～21:00 土曜日 8:40～17:00 日・祝日 9:30～17:00) — 利用率10%以下

夢考房26(設立/1993年5月 面積/1000m²) + 夢考房41(設立/1998年4月 面積/2000m²)

現在の14のプロジェクト(ソーラーカー、ソーラー&人カポート、エコラン、人力飛行機、ロボット、ロボカップ、福祉機器開発、建築デザイン、メカニカルサポート、フォーミュラカー、風力発電、ユニバーサルデザイン、小型無人飛行機、自律走行車)

・ 3) 工学基礎教育(=数理工教育)センター — 利用率59.9%

①31名の在籍教員。窓口A:授業外教員(9名)、窓口B:授業担当教員(22名)

②授業理解度向上プログラム(補習講座の開講) — 授業補習と基礎数理科目を半期で約30コマ開講

③特別講座(微分法、積分法、複素数などの基礎、応用春期・夏期特別講座など)

4) 自己開発センター(資格教育) — 利用率37.2%

各種資格の案内と受け付け + 資格講習会の開催(年間16講座を開講)

■学生を365日勉強させる③ — 金沢工業大学「教育改革」

1) 学生スタッフ (時給800円)

夢考房、マルチメディア工房、ライブラリセンター、施設スタッフ、PMC(ポピュラーミュージックコレクション)など

2) SA (Student Assistant) (1時限 880円)

小テストの採点業務、配付資料の作成、レポート等の資料整理など

3) TA (Teaching Assistant) (1時限 修士課程1360円 博士課程2400円)

演習、実験などの補助が主な役目。

++

2008/6/23

シラバスに基づいた授業評価 — 金沢工業大学「教育改革」

- ・ **シラバス(=学習支援計画書)** ※
キーワード、目標、教材提示、受講に当たっての予備知識・技能、行動目標、達成度評価、評価の実施方法、達成の目安(理想的、標準的)、コマ毎の授業明細表
- ・ **「自己点検授業」における授業アンケート**
予習、復習は出来たか、教科書は役に立ったか、計画書通りの授業だったか、教員の熱意はあったか、満足できたかなど10項目以上
- ・ **分析業者によるアンケート評価(A4版63頁の報告書)**
①本調査の全体像 ②基本的な分析 ③学年別の分析 ④学年毎・学期毎の分析 ⑤学部・学科別の分析 ⑥科目区別毎の分析 ⑦授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析 ⑧全体のまとめ
受講前の興味(70.6%)、計画書の明快さ(81.75)、授業理解への熱意と努力(81.8%)、予習・復習時間(1回の授業に付き1時間以上50%)、教科書の適切さ(79.5%)、課題・レポートの有効度(82.3%)、計画書通りの授業(92.5%)、進度の適切性(85.5%)、授業フォロー(88.0%)、教員の熱意(88.2%)、授業満足度(90.5%)

平成18年度「授業調査 報告書」(2007/8/1)より

金沢工業大学教育改革の特質

学生から教員へ、という改革のベクトル

- ・ 教員に直接指示を出さない(出しても聞かないのが教員)。
- ・ 教員の教育力を学生の力を使って育てる。
- ・ ポートフォリオやレポートは、教員が学生と語る合うためのツール(自分の授業評価の最大のツール) — 学生と話すのが苦手な教員でも書き物があれば話し始める(書き物には強い大学の先生)
- ・ キャンパス教育もまた学生をかき立てることによる、教員の教育への関心をかき立てる道具立ての一つ。

金沢工業大学の教育改革の課題

- ・ **カリキュラムが出来ていない**
- ・ **具体的な技術教育の目標と達成評価が見えない**
PBL (Problem Based Learning) 型の設計・演習教育が単独主義的
設計・演習と講義授業との連関が薄い
講座主義の弊害を抜け切れていない(大学の最大の弱点)
- ・ **「改革」の華々しさの割には成果がない**(あるのは心理主義的なアンケートだけ)。
- ・ **原因: 学生からのボトムアップ型改革であるために教育目標に結びついた改革にならない。いまだなお教員体制(教育する側)の変革に結びついていない。**

専門学校のご数年の課題

〈資格〉教育から〈人材〉教育への脱皮

資格は学歴の代替物。学歴がなくなったのだから、資格教育も意味がない。

自力で教育目標を作り、自力でその達成評価指標を形成する体制作りが急務
科目単独主義を超えたカリキュラム主義に立つこと

講座主義(大学)か、カリキュラム主義(専門学校)かが全入時代の当面の鍵

科目履修主義や講座主義では〈人材〉教育(=職業教育)はできない

具体的な教育目標をもつ専門学校は、具体的な全体目標がなければならない

「第三者評価」の最初の鍵は、企業評価

教育目標を就職目標と結びつけること(就職率時代はとくに終わっている)

学校自身による企業評価を明確化すること

企業からの評価を明確化すること

企業評価とカリキュラム評価との相互整合を取ること

学生の成績評価と企業評価との整合性を取ること